

ステップ4

読書習慣を形成させるための

学校図書館の積極的な利用を促し、児童・生徒の読書習慣を定着させるためには、「読書月間」などの取組を通して、全校を挙げて本に触れる、本を読む機運を醸成させていくことが大切です。その際、個人の取組に終始せず、掲示物を工夫したり、表彰の機会を設けたりするなど、友達と目標や経過を共有しながら取り組むことにより、読書への意欲が喚起されることが期待できます。

事例1：読書推進月間の取組

「読書推進月間」では、各学部の貸出数上位者を、「読書奨励賞」として表彰しています。訪問学級の児童・生徒も参加するなど、誰もが輝けるチャンスとして、児童・生徒の励みになっています。



事例2：読書マラソンの取組

「読書マラソン」は、期間内、最も貸出数が多かった学年を表彰します。友達の影響を受けて、新しい分野の本を借りるなど、読書の世界が広がるきっかけとなっています。



事例3：読書月間終盤には、図書館来館時に貼るシールの数もこんなに増えました。

事例4：本を借りるたびにシールを貼ります。季節に応じた掲示も楽しみの一つです。

事例5：好きな本総選挙の取組

「好きな本総選挙」は、小・中学部の各学年が選んだ全9冊の中から、児童・生徒が好きな本を選んで投票します。投票結果は1学期の終業式で発表します。児童・生徒は、自分が選んだ本が何位になるのか、結果を楽しみにしています。

学校図書館内の装飾は、小学部6年生の児童が担当しました。



好きな本総選挙のお知らせ

期間：6月10日(月)～7月10日(水)の1か月間

方法：お気に入りの本を選んで

カウンターにあるシールを貼ってください！

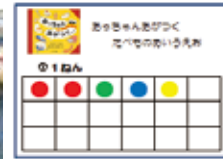
除則：一回の来室につき一回の投票です。

注意：学年代表に任されている中は、期間中の出し出しをご遠慮いただいています。

図書館内 装飾



投票用紙(例)



たくさんの投票お待ちしております。

結果発表は、7月19日(金)の終業式で行います。

+ α

児童・生徒が運営する読書月間



学校図書館のキャラクター「ぶっくん」

■ 肢体不自由特別支援学校の例 ■

全校への読書月間の周知や、結果発表などの運営を児童・生徒が担当しています。周知のための校内放送では、児童から「本の朗読をしたい」と意見が出るなど、意欲的に取り組んでいます。

聞いていた児童・生徒からは「説明が分かりやすかった」との感想が寄せられました。



11月読書月間 じゃっかほっぴょう 結果発表

11月におこなった読書月間では、みんながたくさん本を読み、やさいもをつくりました。

「たくさんやさいもをつかった小学部低学年のみなさんには、ぶっくんからのしおりをプレゼントします。」



算数の授業で作成したグラフを用いて行った結果発表

ステップ4

読書指導の実際①～障害の程度

本書の「言語活動の充実に向けて」編では、障害の程度が重い児童・生徒の個別指導をする際の基本的なポイントについて述べています（55 ページ参照）。障害の程度が重い児童・生徒に対して絵本の読み聞かせをする場合も同様に、児童・生徒の見え方や聞こえ方、表出の手段等に応じて、ページをめくるタイミングや、台詞の言い回し方など、配慮すべきポイントがあります。

ここでは、研究指定校の実践を基にまとめた「障害の程度が重い児童・生徒に対する読み聞かせのポイント（試案）」を紹介します。「なかなか絵本を見てくれない」、「どうしたら楽しんでもらえるだろう」と指導に悩んだ際の参考として御活用ください。

障害の程度が重い児童・生徒に対する読み聞かせのポイント（試案）

1 題材（絵本）の選択	<input type="checkbox"/> 登場人物が少ない。 <input type="checkbox"/> 起承転結が明確である。 <input type="checkbox"/> 色彩が鮮やかではっきりとした絵が描かれている。 <input type="checkbox"/> オノマトペ ⁷ や親しみやすい表現がある。 <input type="checkbox"/> 繰り返しの展開や台詞（言葉）がある。 <input type="checkbox"/> 児童・生徒にとって身近な物や事柄が扱われている。
2 環境設定	<input type="checkbox"/> 児童・生徒の見え方や聞こえ方に配慮して、座る位置や向き等を検討する。 <input type="checkbox"/> 絵本に注目できるよう、絵本の後ろ側にある掲示物等を外す。 <input type="checkbox"/> 児童・生徒が見やすい絵本の高さや位置、角度に配慮する。 <input type="checkbox"/> ページをめくるタイミングやスピードを場面に応じて変える <input type="checkbox"/> 読み手の教員は中心部で読む。（一人一人に示すのは、場面に応じて）
3 場面理解を促す工夫	<input type="checkbox"/> キーワードとなる台詞を言う。 <input type="checkbox"/> 言葉に合わせて身振りを付ける。（場面に応じて） <input type="checkbox"/> 場面の移り変わりを感じさせるために、MT ⁸ のみ、MTとST ⁹ と一緒に声を出すなどの違いを明確にする。
4 読み方の工夫	<input type="checkbox"/> 登場人物や場面に応じて、声のトーンや強弱、表情、読む速さを調整する。 <input type="checkbox"/> 物語の情景を思い描けるように読む。 <input type="checkbox"/> 台詞の部分は問いかけるように、語りかけるように話す。 <input type="checkbox"/> 名詞など意識して欲しい言葉を強調する。 <input type="checkbox"/> 絵本に合わせて、最後の台詞の言い方に配慮する。 <input type="checkbox"/> 読み終わった後は静かに間を空けて、余韻に浸れるようにする。
5 表出を促す工夫	<input type="checkbox"/> 決まった台詞（「せーの」など）を入れ、声を出すタイミングを明確にする。 <input type="checkbox"/> 適度な間を設け、発声を促す。 <input type="checkbox"/> 一人でも反応があったことを確認してから全員で揃えて声を出す。
6 適切な支援	<input type="checkbox"/> わずかな動き（指、手、うなずき、まばたき）や表情の変化などの表出を見逃さずに、すぐにフィードバックをする。 <input type="checkbox"/> 児童・生徒の顔の向きや視線を確認してから台詞を言う。 <input type="checkbox"/> 絵本に注目できるように、頭部等の介助をSTに依頼する。

⁷ オノマトペ：様々な状態や動きなどを、音や表現した言葉のこと。

⁸ MT：読み聞かせをする教員。メインティーチャー。

⁹ ST：児童・生徒の近くで、指導・支援をする教員。サブティーチャー。

が重い児童・生徒に対する読み聞かせ指導～

■読み聞かせ指導における児童の変容■

<対象> 肢体不自由特別支援学校 小学部4・5・6年生

- ✓ 読み聞かせの始まりの場面で、絵本をゆっくりと呈示すると、顔の向きを変えたり、視線を向けたりする等、絵本に注目し、期待している様子が見られた。
- ✓ 繰り返しの台詞の場面では、台詞を聞いて笑顔になったり、教職員の掛け声に合わせて、口を動かしたり一緒に声を出したりする様子が見られた。
- ✓ 物語に登場した動物について質問すると、顔を上げて考えているような表情をしていた。教員から答えを聞くと「そうだよね」という様子で笑顔になった。



読み聞かせに加えて、手作り教材を用いて場面を盛り上げました。児童は、物語のイメージを膨らませたり、期待感を持ったりして本の世界の楽しさを味わいました。

児童・生徒の実態に応じた様々な資料の活用

特別支援学校では、児童・生徒の障害の種類や程度に応じて、通常の図書の他に、パネルシアターや音が出る絵本、布の絵本等、様々な種類の資料を活用しています。近年は、電子図書の活用も進み、なかでもマルチメディア DAISY 図書¹⁰は、音声を聞きながら絵や写真などの画像を見ることができると、様々な実態の児童・生徒が本を読む楽しさを味わうことができる図書として、活用されています。

教員が
手作り
した布
の絵本



¹⁰ マルチメディア DAISY (デイジー) 図書

文字や音声、画像を同時に再生できるデジタル録音図書。パソコン上で専用再生ソフトを使用すると、音声のスピード・文字の大きさ・背景とのコントラストの変更等ができる。

ステップ4

読書指導の実際②～ポップを通

児童・生徒が、自分の「好きな本」や「お薦めの本」のポップ¹¹をつくることは、その本のよさや面白さをより深く理解することにつながります。また、ポップを用いて、他者に本を紹介することを通して、言語能力を育むこともできます。ポップに決まりはありません。各校の特色や、児童・生徒の実態を踏まえ、創意工夫を凝らし、個性あふれるポップ作りに挑戦してみましょう。

■劇遊びでイメージを膨らませた後に巨大なポップを作成した例■

国語・算数で、絵本の読み聞かせと劇遊びを行い、物語の内容をイメージしたり、表情や身振り、簡単な話し言葉で表現したりする活動を行いました。その後、図工で、物語の舞台となった海や生き物をイメージしてスタンプなどを行い、共同作品としてポップを作成しました。

児童の「この本が好き！」という気持ちが込められたダイナミックなポップができました。



役になりきって、台詞を言ったり身振りをしたりしています。



スタンプやこすりの技法を用いて、海の世界を表現しました。

■ポップの作り方をポスターで周知した例■

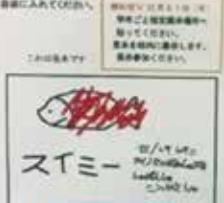
全校を対象にポップ作りに取り組みました。作り方のコツをまとめたポスターと見本を掲示し、全校に周知しました。今回は、規格を葉書サイズに統一し、できたものから廊下に掲示するようにし、日常的に友達の作品も鑑賞できるようにしました。

作成したポップは、学年ごとに廊下に掲示しました。



好きな本のPOPを作ろう！

基本形に、本のタイトル、お薦めポイント、お薦め理由を記入し、
写真・イラストの添削は先生が担当させていただきます。
児童・生徒の活動に合わせて、感想、イラスト、本の写真、本の中のセリフなどを、自由に記入してください。



ポップの作り方を書いたポスターと見本



¹¹ 本のポップ：その本のよさや面白さ、お薦めのポイント等について、言葉やイラスト等を用いて紹介するもの。

して本の魅力を伝え合う～

■見本や ICT 機器を活用した例■

ポップ作りのヒントになるよう、地域の中学校から生徒が作成したポップをお借りし、作成に臨みました。全体の構図や、伝わりやすい言葉選びなどを考える際に、とても参考になったようです。

イメージができた後は、それぞれの実態に応じて、様々な ICT 機器も活用して作成しました。完成するととても満足そうでした。



地域の中学校の生徒が作成したポップを見本に作成中

タブレット端末からアプリを使って作成中



視線入力装置を使って作成中



校内ポップコンテストを開催しました！

■知的障害特別支援学校高等部の取組■

図書委員会が主催して、校内ポップコンテストを実施しました。ポップづくりの導入では、所定の様式にお勧めする図書の写真を貼ってコメントを書くことで、どんなポップをつくるのかイメージを膨らませました。コンテスト当日は、「いいね」シールで投票。人気が高かったポップは、玄関入口の図書コーナーに展示し、多くの方に見ていただきました。

友達が作ったポップを介して、様々な表現の仕方があることに気付いたり、新しい本に出会えたりするなど、多くの学びが得られた活動となりました。



初めは所定の様式に → その後は自分で構図を考えました。



お気に入りのポップにシールを貼って投票します。

ステップ4

発展・発信の場として～都立特別



第1回都立特別支援学校POP（ポップ）コンテスト



令和元年11月9日（土）に都立学校の第2回ボランティアサミットが東京国際フォーラムで行われ、当日同会場で「第1回都立特別支援学校ポップコンテスト」を開催いたしました。

特別支援学校の言語活動及び読書活動の充実を図るための研究・開発事業成果の一環として、各校の御協力をいただき、180点の作品応募をいただきました。展示場所を、会場の入口近くに設定できたので、高校生や保護者の方、引率の先生など、多くの方が立ち止まり、作品を一つ一つ鑑賞し、感嘆の声をあげていました。出展した生徒は、様々な方に自分が好きな本の魅力を直接伝えることができ、満足そうな様子でした。

ここでは、今回のコンテストの受賞作品を御紹介します。

*ポップ作品のキャプションは、紹介図書に関する情報です（書籍名、著者名、出版社名等）。
*専門委員の所属・職名は、令和元年12月当時のものです。



ポップコン賞（専門委員選定）

本賞は、言語活動及び読書活動の充実事業推進委員会の専門委員から、優れたポップ作品として選出された3作品に贈られました。

「折り紙でたくさんの笑顔を
盲目の『折り紙大使』加瀬三郎物語
田島 栄次／文学研プラス



専門委員 野口 武悟 氏
(専修大学教授)

本に登場する折鶴をポップにした発想に驚きました。思わず、どんな本だろうと興味を沸かせる作品です。コメントや絵も丁寧に描かれています。



「サメ王国のグレイ 七つの海を制する者」EJ アルトバックナー／著
桑原 洋子／著訳
KADOKAWA



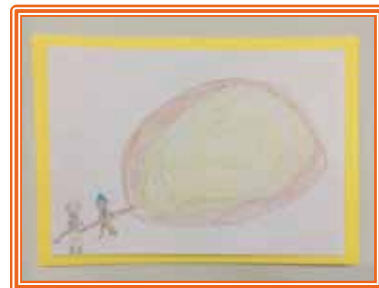
専門委員 内田 剛 氏
(株式会社三省堂書店)

見開きの形になっていることにより「めくって見たい！」と思わせるところが魅力です。配色やデザインも秀逸で、このまま持って帰りたいたいほどです。

画面いっぱいに描かれたホットケーキから、おいしそうな雰囲気とともに、この場面が好きで夢中で描いた気持ちが伝わってくる素敵な作品です。



専門委員 西田 美奈子 氏
(都立多摩図書館)



「ぐりとぐら」
なかがわりえこ／作
おむら ゆりこ／絵
福音館書店

支援学校ポップコンテスト～

本ページは、令和元年12月3日発行「特別支援教育指導課通信12月号外」を再編したものです。

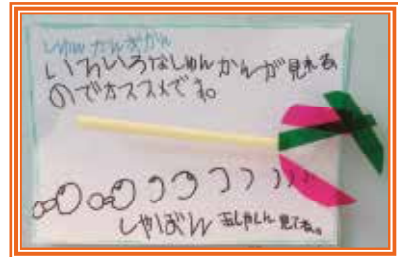


名ポップ十選

本賞は、来場者の投票の結果、選出された10作品に贈られました。



「スイミー」レオ＝レオニ/作 谷川 俊太郎/訳 好学社



「そうだったのか！しゅんかん図鑑」
伊知地 国夫/写真 小学館



「たまごやきくん」
村上 康成/著 小学館



「鉄道記」真島 満秀/写真・文
福音館書店



「バッタを倒しにアフリカへ」
前野ウルド浩太郎/著 光文社



「オオカミ王ロボ
(幼年版シートン動物記1)」
アーネスト・トムソン・シートン/著
前川 康男/著 石田 武雄/絵
フレーベル館



「おもしろい！進化のふしぎ
ざんねないきもの事典」
今泉 忠明/監修 高橋書店



「シンカイゾクのシールあそび
しんかいたいけん！」サンリオ



「爆発する歯、鼻から尿」
トマス・モリス/著 日野 栄仁/訳 柏書房

都立特別支援学校POP（ポップ）コンテスト
イメージキャラクター

ポップちゃん



コンくん

※本書には、著作物の利用許諾が得られた図書及びポップを掲載しています。